

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	児童発達支援くらっぴ			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61	(回答者数)	41
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・曜日によって様々なニーズに合わせたプログラムが組まれていること ・専門職が多く、質の高い、療育ができていること	・子どもがあきないように毎日プログラムの内容を変えている ・各専門計画書を定期的に見直し、個別や小集団での療育を積極的に取り入れている	・各職員が療育内容を知ることができるように、積極的かつ定期的に外部研修を行う。 ・第3火曜日の午前中に継続して内部研修行い、各職員のスキルの向上と待っているスキルを発揮する。
2	・職員が明るく、積極的に保護者や他施設とコミュニケーションが取れていること	・毎朝の朝礼や掲示板を活用し、全体の情報共有を徹底して行っている ・送迎時に、こちらから声をかけ、利用児童の情報共有を行っている	・送迎時の話だけでなく、写真やビデオなどデジタルなものを活用し、目で見てわかるようにしていく。 ・ノートなどで様子を詳しく伝えるとともに、児童の課題について共有したり、育ちを喜び合ったりする機会を多く設けるようにする。
3	・保護者交流会や家庭訪問、午前中の支援見学など、保護者に対する支援も定期的に行っていること	・各専門計画書を定期的に見直し、個別や小集団での療育を積極的に取り入れていること	・年間プログラムを作成しながら、多くの保護者に参加してもらえるように呼びかけるようにする。 ・家庭と連携を密な連携を取りながら、関わり方の統一を図り、児童の育ちを多角的に支えることができるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋が少し狭い	・午後からの利用が増えており、夕方の時間は、児童またはプログラムによっては狭く感じてしまう。	・隣の公園やビル内の他施設、屋上の利用など、場所を分けながら支援できるようにする。
2	・保護者の悩みを共有しあう場が少ない。	・定期的な保護者交流会やペアレントトレーニングは行っているが、回数が現在少ない。 ・時間に制限もあるため、なかなか保護者同士のつながる場として提供できていない。	・年間計画の中に多く取り入れることで、回数の増加を図るようにする。
3	・外部研修の機会が少ない。	・職員の配置等の理由により、なかなか行けていない。 ・会社予算に外部研修費用の概算がないため、なかなか行きにくい現状がある。	・取締役を含め、今後外部研修費用や頻度について検討する必要がある。 ・外部研修に行ける人員確保が安定して必要となる。